

GPS 安全性要約書

この GPS 安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS: Global Product Strategy)に基づいて、当社が販売する化学製品のリスク評価結果に関する情報の概要を一般社会に提供するものです。

この文書は、ヒトの健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細等の専門的な情報を提供するものではありません。また、安全性データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(CSR)に代わるものではありません。本製品のお取り扱いに際しては、当社が発行する SDS をご確認ください。

記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。

製品名 (PRODUCT NAME)

過硫酸ナトリウム

製品の概要 (GENERAL STATEMENT)

過硫酸ソーダ は白色で粉末状固体です。主に、工業用に広く用いられています。

製造時や使用等では安全性データシート(SDS)に基づいた適切な保護具の着用、局所排気の適用が推奨されます。国内では作業環境許容濃度は設定されていないため、リスク評価で用いた指標などを参考に、必要に応じてばく露濃度を管理・制御することが推奨されます。作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をすることが推奨されます。

また、適切な排水処理設備を設置し、環境への負荷を最小化するために漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨されます。

化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

組成

名称	CAS RN.	官報公示 整理番号	含有量	備考
過硫酸ソーダ	7775-27-1	(1)-1131	98%以上	

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

当社製品の主な用途	重合開始剤や表面処理剤など
-----------	---------------

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

外観(物理的状态)	固体(粉末)
色	白色

臭気	微刺激臭
pH	知見なし
比重(相対密度)	2.549
融点/沸点	非該当(融解する前に分解する) / 非該当(融解する前に分解する)
可燃性/引火性	燃焼性なし/引火点なし
爆発範囲	なし
自然発火温度	なし
蒸気圧	知見なし
蒸気密度	知見なし
水溶解性	70.2 g/100g(20°C)、730g/l (25°C)
オクタノール-水分配係数	知見なし
分解温度	>180°C (熱分解は水分によって促進される可能性がある) 292.1°C (DSC)
その他	酸化性: 水に溶解して強い酸化力を示す。

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

影響評価	結果 (GHS ^{*1} 危険有害性分類)
急性毒性(経口)	飲み込むと有害(区分 4)
急性毒性(吸入)	(気体)当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2}) (蒸気)毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2}) (粉じん)当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2}) (ミスト)当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
急性毒性(経皮)	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
皮膚腐食性/刺激性	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	眼刺激(区分 2B)
呼吸器感作性	吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ(区分 1)
皮膚感作性	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ(区分 1)
生殖細胞変異原性	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
発がん性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
生殖毒性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ(区分 3(気道刺激性))
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
誤えん有害性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
備考	^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals. 世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。 ^{*2}

	<p>区分に該当しない:分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合や、GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないものなど</p> <p>分類できない:分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合</p>
--	---

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

影響評価	結果(GHS ^{*1} 危険有害性分類)
水生環境有害性(急性)	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
水生環境有害性(慢性)	当該区分での分類の対象となっていない、一番低い区分とする十分な証拠が認められていない等(区分に該当しない ^{*2})
オゾン層への有害性	毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2})
備考	<p>^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals. 世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。</p> <p>^{*2}</p> <p>区分に該当しない:分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合や、GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないものなど</p> <p>分類できない:分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合</p>

環境動態	結果
環境中の移行性	水系からの揮発性は低く、土壌への吸着性も低いと推定される
生分解性	無機物のためデータなし
生物蓄積性	生物蓄積性は低い
PBT/vPvBの結論	PBT、vPvBに非該当である
備考	<p>*PBT: Persistent, bioaccumulative and toxic(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)</p> <p>**vPvB: very Persistent and very Bioaccumulative(環境中に非常に残留しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する)</p>

ばく露 (EXPOSURE)

作業員および消費者、環境へのばく露は、以下の取扱い時におこる可能性がある。

詳細	No.	当社製品の主な用途におけるばく露の可能性(ばく露経路)
作業員ばく露	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・管理されたばく露のある閉鎖系・連続プロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がある。 ・閉鎖系バッチでの合成あるいは調合作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がある。 ・ばく露の機会のあるバッチおよびその他のプロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出および装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がある。 ・流出を最小化するように設計された条件での小容量コンテナへの物質

		や調剤の移し替え作業において、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性 がある。
消費者ばく露	2-1	消費者がばく露される可能性はほぼない
環境ばく露	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・産業における物質の製造工程から、主に大気及び水環境へ放出される可能性 がある。 ・産業における調剤の調合工程から、主に大気及び水環境へ放出される 可能性 がある。 ・ポリマー成形等の成形品の一部にならない加工助剤として産業で使用 され、主に大気及び水環境へ多く放出されやすい。また土壌環境へも放 出される可能性 がある。 ・業務用の表面洗浄の使用等、反応性物質として屋外で使用され、広範 囲の水、土壌環境へ放出される可能性 がある。
注意事項		他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置 を参考に適切な措置を実施してください

推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

詳細	No.	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業員ばく露	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・製造、投入、充填、重合、表面処理の作業の際は、適切な保護具を着 用する。 ・局所排気を適用する。 ・現在、国内では作業環境許容濃度は設定されていないため、リスク評 価で用いた指標などを参考に、必要に応じてばく露濃度を管理・制御す る。 ・作業責任者は、作業員に適切な保護具の選択や正しい使用方法、また は作業現場の管理方法などの教育をする。
対消費者ばく露	2-1	消費者がばく露される可能性はほぼない
対環境ばく露	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な排ガス処理施設を設置する。 ・適切な排水処理施設を設置する。 ・漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取り扱いに注 意を払う。
その他取扱注意事項		熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざける
注意事項		・通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、SDS の 4, 5, 6, 7, 8, 13, 14 項を参照して下さい

(注) No. は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載してい
る

法規制情報／分類・ラベル情報

(REGULATORY INFORMATION / CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報


法律	規制状況
労働安全衛生法	酸化性の物 法第 57 条 表示対象物質 ペルオキシ二硫酸ナトリウム 法第 57 条の 2 通知対象物質 ペルオキシ二硫酸ナトリウム
毒物及び劇物取締法	適用なし

消防法	適用なし
化学物質排出把握管理促進法	令別表第1、第1種指定化学物質 ペルオキシ二硫酸の水溶性塩
船舶安全法	危険物告示別表第1 酸化性物質類・酸化性物質
航空法	爆発物等告示別表第1 酸化性物質類・酸化性物質

GHS 分類情報

ハザード項目	分類結果(危険有害性情報)
酸化性固体	区分3
急性毒性(経口)	区分4
急性毒性(吸入)	(気体)区分に該当しない (蒸気)分類できない (粉じん)区分に該当しない (ミスト)区分に該当しない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分2B
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分に該当しない
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性(急性)	区分に該当しない
水生環境有害性(慢性)	区分に該当しない
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル情報

絵表示またはシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	<ul style="list-style-type: none"> ・火災助長のおそれ: 酸化性物質 ・飲み込むと有害 ・眼刺激 ・吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ ・呼吸器への刺激のおそれ
注意書き	使用前に本安全データシート(SDS)に記載された全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。

	<p>[予防策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。 ・衣類/混触危険物質/可燃物から遠ざけること。 ・可燃物と混合を回避するために予防策をとること。 ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 ・呼吸用保護具を着用すること。 ・粉じん/蒸気を吸入しないこと。 ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 ・取扱い後は手/顔をよく洗うこと。 <p>[対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断/手当てを受けること。 ・皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。医師の診断/手当てを受けること。 ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診断/手当てを受けること。 ・飲み込んだ場合：口をすすぐこと。医師の診断/手当てを受けること。 ・気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 <p>[保管]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 ・施錠して保管すること。 <p>[廃棄]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容物/容器を廃掃法などの法規制に従って廃棄すること。
--	--

出典 (REFERENCES)

三菱ガス化学株式会社(2021)GPS/JIPS 対応リスク評価
三菱ガス化学株式会社作成 SDS(改訂日 2016年7月26日)

連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名	三菱ガス化学株式会社
住所	東京都千代田区丸の内2-5-2
担当部門・担当者	機能化学品事業部門 無機化学品事業部
電話番号/FAX 番号	03-3283-4755/03-3287-2643

発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版: 2021年3月31日発行

改訂:

改訂日	項目	改訂箇所	版

特記事項:

なし